

輸入合板でインドネシア、マレーシアに次ぐ3番目の主要国に躍り出た中国だが、10日に中国の合板メーカーが海外のJAS認定機関からJAS認定を取り消される事態が発覚した(12日速報、13日付一面既報)。問題は、JAS認定取り消し対象の普通合板が2月22日以降、LVLは5月12日以降に生産されたものであることから、既に日本に入荷しJAS品として住宅その他の部分で利用されている恐れがあることだ。市中在庫の未使用品は販売規制や回収などの作業にとどまるが、既に使用されている資材についてのどのような取り扱いにすべきかが、今後の問題となってきた。

問題のメーカーは江 前代未聞だ。

蘇省ベンベンマオ・ニ ムトウアグンはJAS認定を取り消す理由外JAS認定機関であるとして、品質管理(QC)データの不備、日

リが同社に対し普通合板、LVLともに20視等の欠如を挙げている。早いうちにこうし

た事態が発覚している。普通合板は5層と

7層の全層ロシアカラ松及びロシアカラ松と

パイン(ラジアタ松ほかと推定)で、いわゆる

針葉樹構造用合板だ。

合板メーカーのJAS認定したわずか数ヶ月後にJAS認定を取り消すという事態で

針葉樹合板は中国産が最大

中国からの合板は、広葉樹に関してはインドネシア、マレーシア産には及ばないが、針葉樹は1~8月で8万4000立方メートル輸入されており、最大だ。国内の合板メーカーが年

さらに、2月24日にロシアのウクライナ侵攻を受けた西側諸国の経済制裁措置への対抗手段としてロシアが原木、単板、チップの輸出禁止を発令し、日本側も対抗措置としてこれら3品目の輸入禁止を打ち出した。

04年には、中国のJAS構造用集成材メーカー・徳聯木業製品工場(CPL)の集成管柱の接着層が剥離したとして問題視された経緯がある。

中国合板JAS認定取消し

入荷済み製品の取扱いに注目

と、同社の合板生産量は月間4000~5000立方メートルとされているが、生産能力を超える製品が出荷されている疑いがあるというわけだ。

また、日本産に比べは同社製品の取り扱いには十分注意するよう社内で行ったこと、業界内では問題視されている。

葉樹合板に警戒心を強めたのは、国産の構造用合板の着実な値上りから中国でカラ松単板を加工して持ち込むことへの模索が始まった。

「それ見たことか」と言いたくなる状況にもなったわけだ。

また、日本産に比べは同社製品の取り扱いには十分注意するよう社内で行ったこと、業界内では問題視されている。

優先が裏目? ロシアの侵攻そのものを認めないとして、

主要4カ国輸入合板及びその他品目国別・品目別輸入量(1~8月累計) 単位:1,000㎡、()は前年同期比%

国名	広葉樹合板	針葉樹合板	LVL	BB	計
インドネシア	538(119.2)	—	13(117.7)	80(140.8)	633(121.5)
マレーシア	552(100.8)	—	0.6(33.8)	3(79.7)	556(100.4)
中国	99(138.9)	84(1,486.0)	269(76.9)	5(167.6)	458(106.5)
ベトナム	114(95.9)	0.2(—)	67(191.0)	0.4(—)	183(118.0)
その他含む	1,308(109.6)	92(734.5)	355(87.9)	95(148.8)	1,852(110.6)

(注)BBはブロックボード。計には竹製品を含む

建築主から当局に相談が寄せられたもので、農水省はJAS規格に定める曲げ強度の基準値は満たすものの接着性能に問題がある

消費者の声

あるボプラLVLなどを除いて中国産製品に対して慎重な扱いを求める声は業界内で間違いなく高まるのではないかとと思われる。